会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和4年度職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業（２）教職員の資質能力向上の推進②教職員研修プログラムの構築 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第1回ICT活用WG |
| 開催日時 | 令和4年6月27日（月）　15時00分～17時00分 |
| 場所 | オンライン開催 |
| 出席者 | 事業責任者：高岡　信吾、岡村　慎一　　　　　　　　　　計2名委　　　員：猪俣　昇、岩﨑　千鶴、合田　美子、長瀬　あゆみ瀬戸　直貴、中田　明子　　　　　　　　　　計6名　　　　　　　　請負業者　：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　計1名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計9名 |
| 議題等 | 〇令和3年振り返り（猪俣）・昨年度は、コロナなどの関係から、しっかりとした動機付けができていないまま研修に臨まざるを得なかった。研修目的や説明を明確に説明する必要がある。（猪俣）・事前課題のビデオが所要2時間程度となり、受講者に対して負担が大きかった。（猪俣）・ケーススタディについて、昨年度のものをベースに変更が必要と考える。このため昨年度実施校に対して調査などを実施し、情報を収集することにしたい。（猪俣）・事前学習内容と対面学習内容は限りなく重複をなくすことで、対面研修の時間有効活用を図る必要がある。（猪俣）・全体的に前半と後半の空気感が違いすぎた。（猪俣）・事後学習にまで至ることができないケースがあった。（猪俣）・ヒアリングツールとして、Googleにこだわりはない。講師が具体的にどのような対応をするのかを入れる必要がある。（長瀬）・本校ではGoogleでの検証がありがたい。リアルな事例とはどのようなものなのかがイメージできない。（岩崎）・研修を学校ごとでやる形式はこのまま続くのでしょうか。学校単位でツールの推奨があると思う。ツールごと（Google,MS,,,,）の特徴をとらえて、課題ごとにオブジェクト化していくうちに回答ができてくる。（合田）・今年から参加なので、、、。（瀬戸）・ICTツールを何を使うかについてはアイディアはない。ツールにこだわらずにコミュニケーションを使う手法の話を進めたい。（中田）・ツールにこだわりはない、何をするべきなのか、何を管理すべきなのかなどを考える必要がある。このプロジェクトの中のオリジナリティの必要性を感じている。（高岡）・学生の一人一人の学習状況を把握し、このような声掛けをしていければ良いと思っている。ツールにはこだわりはない。むしろ、どのようなデータを集めるのかが必要ではないか。（岡村）・事例に関しては、どのように活用するのかによって公開の範囲が決まる。なた、事例として何を求めているのか、どのようなケースが必要なのかを明確にしてほしい。（高岡）・ICTを使っていない現状の問題点を考えている。（猪俣）・特定講師を前提とした研修プログラムの作成の仕方について改善の必要がある。（高岡）・現状の目的が共有されていない気がする。現在依頼している講師のパターンを参考に各校がカスタマイズすればよい気がする。（瀬戸）・この事業の目的は、複数の学生がいる中で、ドロップアウトしそうな学生を早く察知し、対応することが重要であると考える。ICTは、このために使っていきたい。（岡村）・新潟、岡山、京都にヒアリングを実施したいと思うがよろしいか？・・問題なし。（３校）・ICTを使ってそもそも学生の態度変容を監視できるのかが疑問。これはICTだけに頼る問題ではない可能性がある。（中田）・出欠の状況や成績の状況の変化をとらえるのがICTが得意なところなのか。（高岡）・事後課題を提出して人の分析結果はあるのか。アダプティブに学生の変化を確認できたのか（合田）・本校は、学級日誌をチームスでとるようになり、クラスルームの状態が把握できるようになった。（長瀬）・具体的にどのようなデータを取るのかを示すことは一つのチャレンジになると思う。（中田）・成績、出席、遅刻、日報等の情報をベースに早期に学生の変化を見えるかできるかもしれない。（高岡）・教学IRの中で欠席は重要なファクター、2番目は喫緊の成績は、中途退学の理由付けとして重要である。学習効果をターゲットとした場合には、教育設計が重要であると思う。（合田）〇本年度のスケジュール・実証講座までに昨年度検証した学校に8月までにヒアリングをする。・9月を目途にヒアリング結果を教材に反映。・実証講座は10～12月を予定。＊次回に日程等を確認〇次回のICT活用WGのスケジュール　8月29日（月）14：00～16：00 |
| 配布資料 | ・第1回WG資料・ |

以上